

一宮駅周辺地区 デザイン計画

2026年6月

目次

1. 目的と位置づけ、対象範囲

| | |
|-------------------|---|
| 1-1. 現況と課題 | 2 |
| 1-2. 計画の目的と位置づけ | 3 |
| 1-3. 計画の役割と策定体制 | 4 |
| 1-4. 一宮駅周辺地区が目指す姿 | 5 |
| 1-5. 対象エリアとゾーニング | 6 |

2. 本町通りのデザイン方針

| | |
|----------------------|----|
| 2-1. 本町通りの将来デザイン | 8 |
| 2-2. 本町通りの将来デザインの考え方 | 10 |
| 2-3. 本町通りの基本構成 | 12 |

3. 銀座通りのデザイン方針

| | |
|----------------------|----|
| 3-1. 銀座通りの将来デザイン | 14 |
| 3-2. 銀座通りの将来デザインの考え方 | 16 |
| 3-3. 銀座通りの基本構成 | 18 |

4. 今後の予定

| | |
|-----------------|----|
| 4-1. 通りの利活用の考え方 | 20 |
| 4-2. 今後の予定 | 21 |

1章 目的と位置づけ、対象範囲

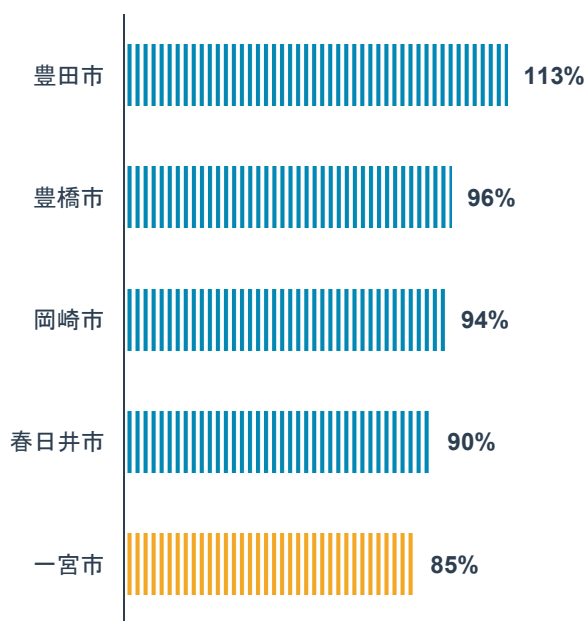
1-1. 現況と課題

昼間の人口流出とまちなかの求心力低下

一宮駅は、名古屋市と岐阜市のほぼ中間に位置し、名古屋駅と岐阜駅へはおよそ10分でアクセスすることができるなど、1日約8万人の方が行き交う一宮市の中心的な拠点です。一方、市全体の昼夜間人口比率は85%と他市よりも低く、**通勤や通学のために市外に流出する人が多い状況**にあります。

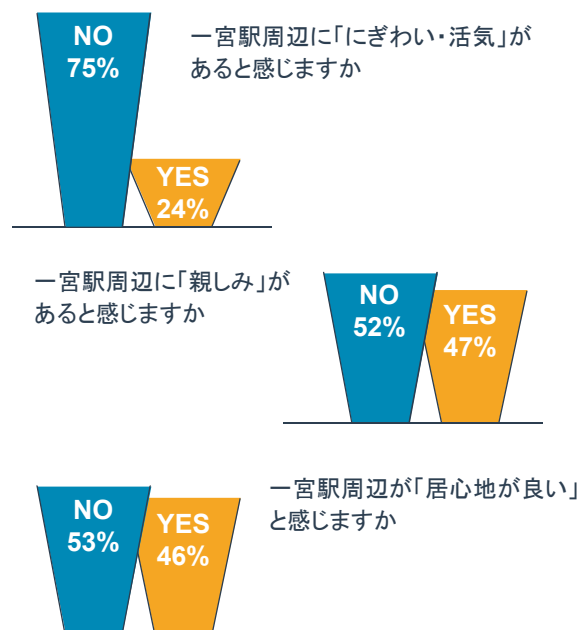
また、中心市街地である一宮駅周辺地区について、**「にぎわっている」と感じている市民の方はわずか24%に留まっており、親しみやすさや居心地の良さについても、過半数の方が感じられないと回答されており、まちなかの求心力低下**が起きています。

県内30万人以上都市の昼夜間人口比率(2020年)



出典: 国勢調査(2020年)

一宮駅周辺の魅力に関する市民の印象(2023年)

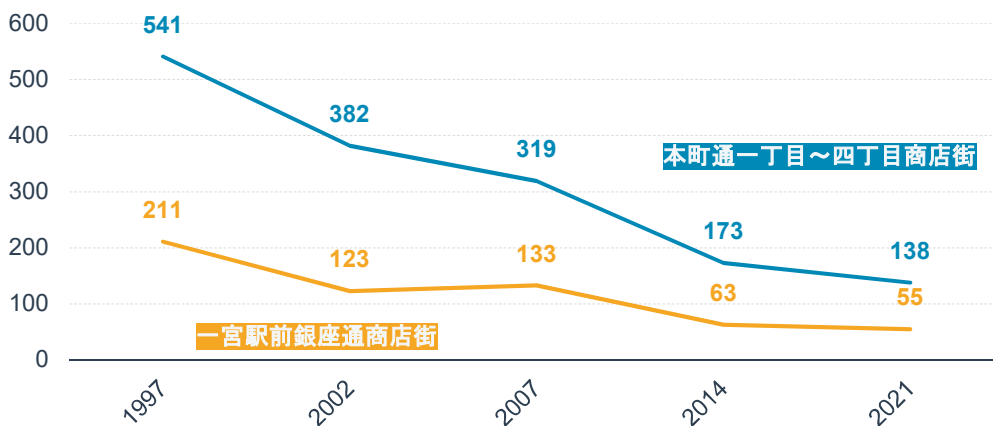


出典: 市政アンケート調査(2023年)
※回答数983名、YESは「感じる」、NOは「感じない」と回答した方の割合
合計が100%未満になるのは無回答者を含むため

まちなかの商業機能低下

一宮駅周辺地区の中心的な都市軸であり、歴史的な商業集積地でもある銀座通り、本町通りにおいて、**各商店街における従業員の数が1990年代の1/4近くまで減少**しています。そのことから、まちなかにおいて働く人や買い物をはじめとした訪れる人が減少傾向にあり、**商業機能が低下**していることがわかります。

各商店街(商業集積地)における従業員数の推移



出典: 商業統計及び経済センサス(各年)

1-2. 計画の目的と位置づけ

計画の目的

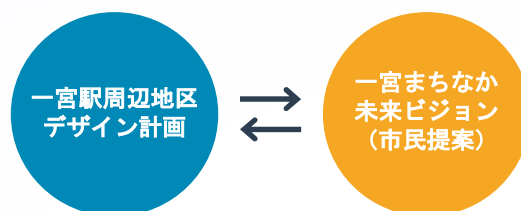
この計画は、一宮市の顔である一宮駅周辺地区において、個別の空間資源や人の営みをつなぐことで新たな価値や動きを広げ、多様な人と場所が広がる**ウォーカブルシティ**の形成を目指すものです。

人が主役となることができ、誰もが暮らすだけでなく働ける・稼げるまちに転換し都市機能を引き込める素地として、一宮市の顔にふさわしい、人や企業に選ばれる**”居心地の良い空間づくり”**”歩きたくなるようなまちなか”を構築することを目的とします。

計画の位置づけ

①官民の連携により、賑わいのある空間・人・仕組みを一体的に作り上げる

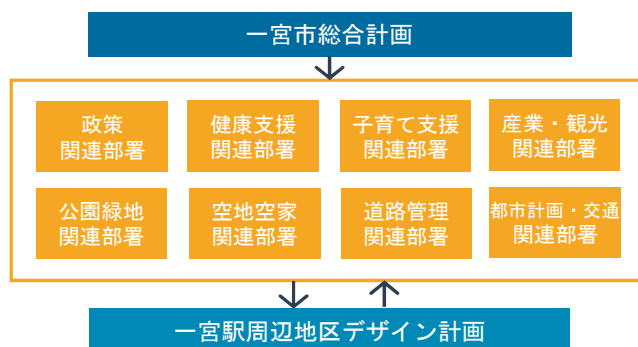
官民の多様な人材により、まちなかの未来を議論するエリアプラットフォーム「一宮まちなか未来会議」が市民の想いと提案をまとめた「一宮まちなか未来ビジョン」の実現に向け、**本計画と相互補完的に取り組みを進めます。**



②各分野と横断的な体制で取り組む

本計画は様々な行政分野に関連しています。

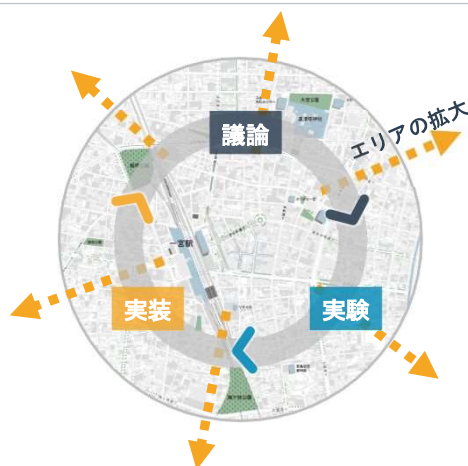
市役所内部で横断的な体制を構築し、必要に応じて庁内の他部署と連携しながら取り組みを進めます。



③実験と実装のサイクルで段階的にアップデートする

本計画は、社会の流れに伴って変化するライフスタイルやワークスタイルに対応し、まちを使う市民や事業者が活動しやすい空間を実現するための取組方針を示します。

「一宮まちなか未来会議」と連携し、**社会実験による検証や見直しを重ねながら、状況に応じて徐々に実装エリアを拡大**していきます。



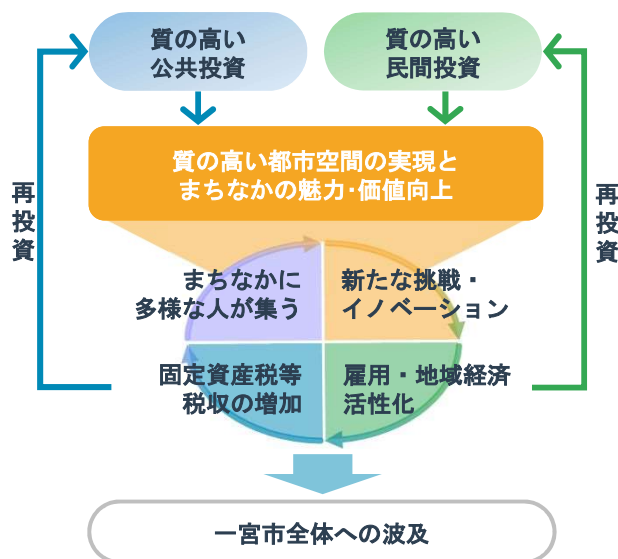
1-3. 計画の役割と策定体制

計画の役割

一宮市全体の一体的な発展を実現するためには、駅前のみならず、その効果が周辺地域へと波及していくことが重要です。

すでに多くの人が行き交う一宮駅周辺地区において、多様な市民や来訪者が滞在し、暮らしを営み、新たなアイデアの挑戦を繰り返すことで、新たな仕事生まれ、さらに人が集う好循環が生まれます。

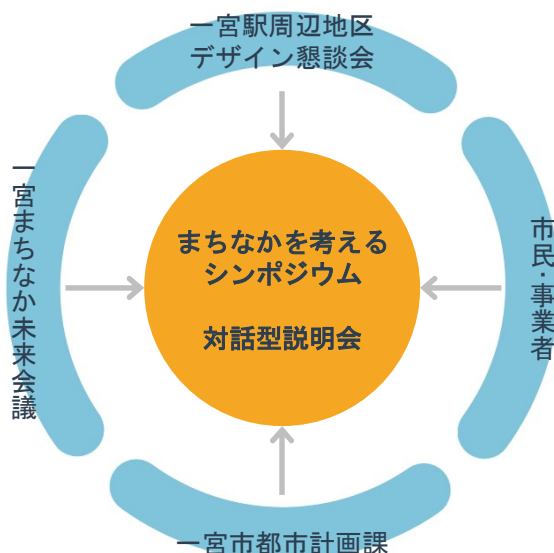
まずはこの地区から、実験を繰り返しながら徐々にアップデートし、**一宮市全体へ豊かさを波及するまちなか形成**を目指します。



計画の策定体制

一宮駅周辺地区におけるこれまでの取り組みは、市民・事業者、まちなかの官民連携組織である「一宮まちなか未来会議」、有識者からなる「一宮駅周辺地区デザイン懇談会」、それらの事務局である一宮市が連携しながら、議論と対話、社会実験を行いながら進めてきました。

さらに、一宮まちなか未来会議と共催している、有識者、市民、事業者などの関係者が一堂に会する「まちなかを考えるシンポジウム」及び、市との意見交換として地域の方々の率直な未来のまちづくりに関するご意見を伺う「対話型説明会」において、**取り組みの経過を広く市民に報告・意見聴取を行いながら、本計画の策定を行っています。**



1-4.一宮駅周辺地区が目指す姿

①人中心のまちづくりへの転換

- 一宮駅前から本町通りに至るまでの主要動線を、一宮市の玄関口として“このまちで暮らしたい！働きたい！”と思える「人中心の空間」にします。
- 道路空間を、ただ人が移動するための空間から、“歩いている楽しい”、“居心地がいい”と思える空間にし、移動とアクティビティ、人と車の新しい共存を目指します。

②都市拠点としての役割

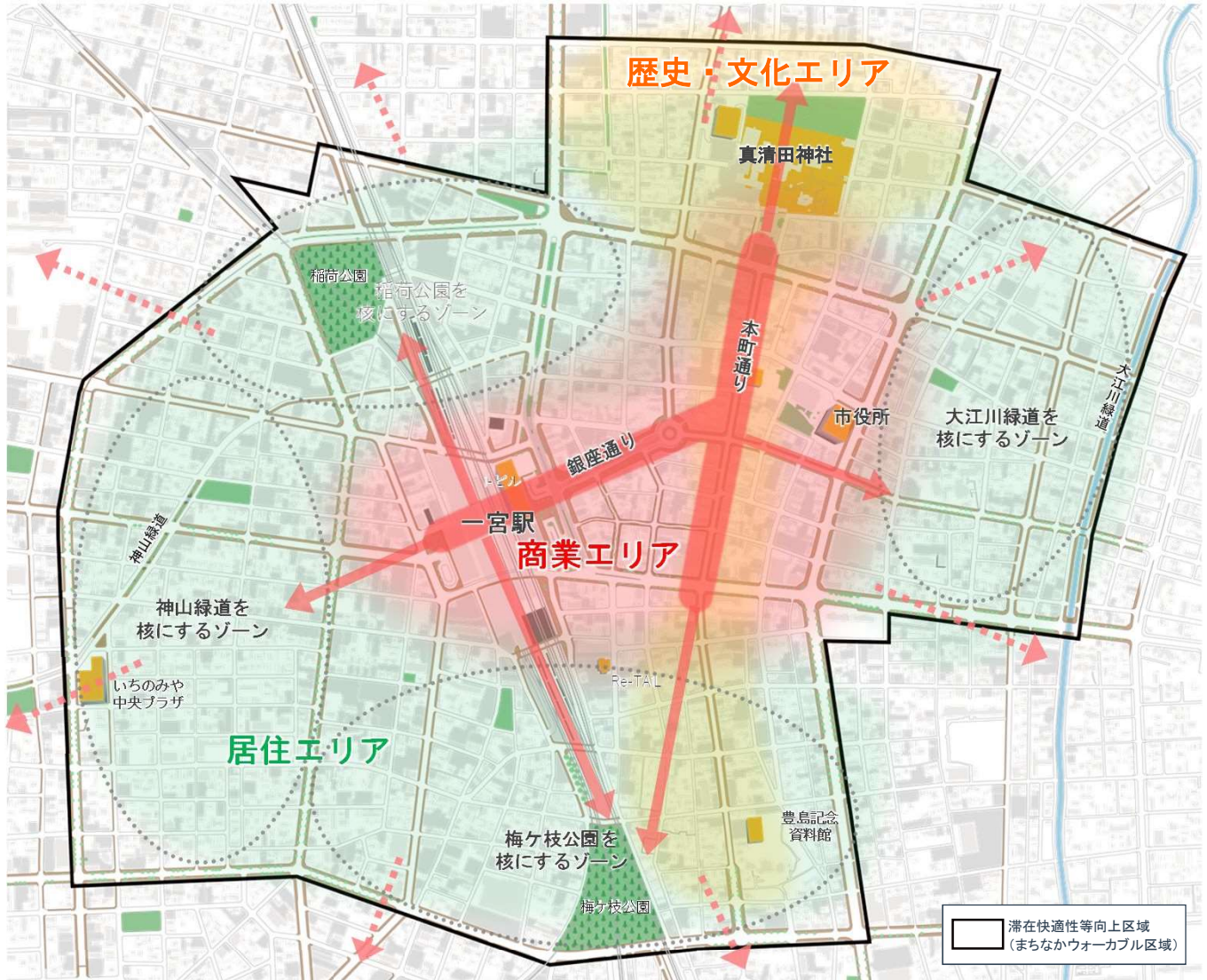
- 一宮市の中心部に位置する一宮駅周辺地区は、一宮駅を核として、尾張地域の中核都市である本市の「顔」となるにぎわいあふれるまちづくりを進めます。
- 本市の活力を支える中心拠点として、商業機能をはじめとした多様な都市機能の集積を進めるとともに、居住人口の維持、滞在人口の増加により、地域活力の向上を図ります。

③人の誘導とベッドタウンからの脱却

- 名古屋市と岐阜市から鉄道で約10分と交通利便性が高い立地を活かし、居住をはじめとした更なる人の誘導を積極的に図るため、「選ばれる」まちづくりを進めます。
- 昼間人口が少なく人の流れが外に流出しているベッドタウンから脱却し、日中や休日でも居心地よく豊かに滞在でき、この地域で“暮らしたい”と感じる人が増える地区を目指します。

1-5. 対象エリアとゾーニング

本計画は、一宮駅から約1km圏内において、一体的に中心市街地を形成しているエリアとして位置づけられた滞在快適性等向上区域(まちなかウォーカブル区域)を対象とします。



各エリアの機能と役割

- 居住エリア**
- ・ 商業エリアや歴史・文化エリアに近く、身近な買い物先や公園があり、駅周辺で歩いて暮らすことができる
 - ・ それぞれの主要な公共空間を核に一宮のまちなか居住の促進を支える地域
- 商業エリア**
- ・ 一宮市の活力を支える中心として、企業や魅力ある個店が揃い商業・業務機能が集積している
 - ・ 一宮駅を中心に多くの人が行き交い、駅からの玄関口としての役割も持つ地域
- 歴史・文化エリア**
- ・ 真清田神社などの歴史・文化的資源や街並みから、古くからの歴史を感じることができる
 - ・ 古くから営業している商店と現代的な新しい個店、歴史とカルチャーの混在が楽しめる地域

主要軸の役割

- 銀座通り**
- ・ まちの中心軸として、商業・業務、居住ニーズを満たし、沿道を含めた地域活性化と再生の舞台となる通り
 - ・ 一宮駅と本町通りをつなぎ、一宮市の暮らしの魅力を市内外に発信する通り
- 本町通り**
- ・ 商店街や店舗の活動の場、住民の生活の場、真清田神社等への来訪者のための場として、地域の歴史や文化を感じさせるとともに、周辺の暮らしと商業を豊かにつなぐ界限性を持つ通り
 - ・ 真清田神社の門前町、参道として栄えた歴史を背景に、愛着や誇りを持てる地域文化を形成する通り

2章 本町通りのデザイン方針

2-1. 本町通りの将来デザイン

本町通りの目指す姿

本町通りは、かつて真清田神社の参道であり、
門前の三八市を発祥として現代の商店街が形成されてきた歴史ある通りです。
門前町らしい落ち着いた街路景観の足元で、
アーケードを活かした商店街らしさと参道らしさ、多様な活動が両立する、
“笑顔で歩いて暮らせる「本町ぐらし」のある通り”を目指します。



【デザインコンセプト】

- ①門前町としての風景創出を支える活用しやすく、落ち着いた街路景観
- ②アーケードや道路占用物を活用した参道らしさや商店街らしさを生む風景の演出
- ③将来的な沿道の更新や誘致につながる、多様な利活用を促進する仕組みとそのデザイン



2-2. 本町通りの将来デザインの考え方

- ・自動車と歩行者の共存のあり方を見直し、日常・暮らしにおける通りの利用と、にぎわい・回遊性向上の両立ができる通りを目指します。
- ・本町通りの将来デザインは、本町一丁目から四丁目まで**本町商店街内を統一した歩車道一体の舗装デザイン**とすることで、参道らしい風景と連続性を創出します。
- ・商店街やまちづくり団体等と行政が協力して、歩行者利便増進道路(通称 ほこみち)等の制度による道路空間の利活用を進め、沿道店舗によるオープンカフェや商品棚の設置、ベンチなどの滞留施設や植栽の設置、既存アーケードの利活用など歩行環境の向上につながる取り組みを進め、**快適かつ楽しく過ごせる仕組みがあふれる街路景観を実現**します。

本町通二丁目商店街から本町通四丁目商店街のイメージ



沿道店舗等による 道路利活用の仕組みづくり

ほこみち制度の活用により、車両通行規制時は広い歩道を沿道店舗が積極的に多様な利活用ができる環境を整えます。車両通行規制以外の時間も店舗前の軒先空間は利活用できるようにします。

参道らしさを感じられる 歩車道で一体性ある舗装

歩道と車道の一体的かつ温かみのある舗装を整備します。真清田神社から連続する、通りの参道らしさを高めます。

アーケードへの添架による 参道らしさを感じさせる演出

アーケードの積極的な活用により、真清田神社の参道らしさや商店街らしさがある通りの風景を演出します。

植栽やベンチ等による 滞在快適性が高い通りの形成

プランター植栽やベンチなど、通りでの過ごしやすさを高める設備の設置できる環境を整え、ゆっくりと時間を過ごせる本町通りを実現します。

本町通一丁目商店街のイメージ



参道らしさを感じられる 歩車道で一体性ある舗装

歩道と車道の一体的かつ温かみのある舗装を整備します。真清田神社から連続する、通りの参道らしさを高めます。

植栽やベンチ等による 滞在快適性が高い通りの形成

プランター植栽やベンチなど、通りでの過ごしやすさを高める設備の設置できる環境を整え、ゆっくりと時間を過ごせる本町通りを実現します。

真清田神社への 見通しの確保

本町商店街の中でも真清田神社に隣接し、アーケードがない本町通一丁目商店街の間では、真清田神社へ自然に視線誘導ができるような道路景観を形成します。

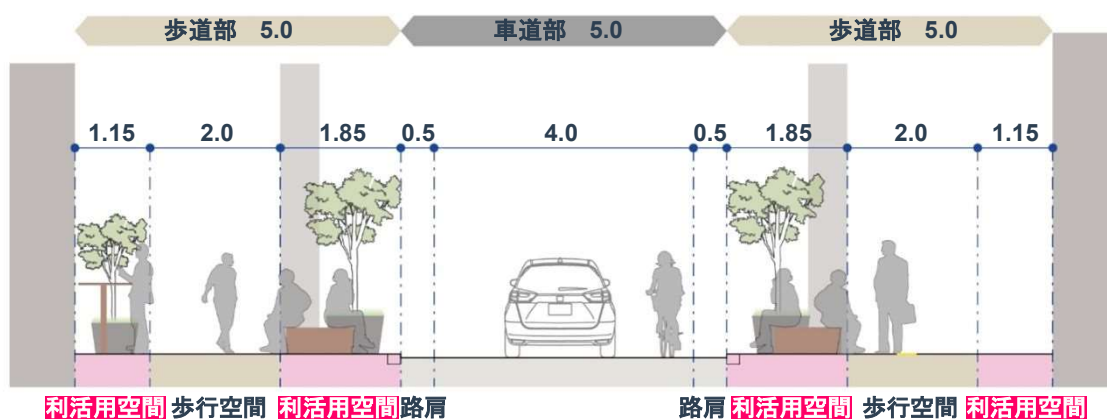
沿道店舗等による 道路利活用の仕組みづくり

ほこみち制度の活用により、店舗前の広い歩道を沿道店舗が積極的に多様な利活用ができる環境を整えます。誘導ブロックがある区間においても、店舗前の軒先に利活用できる空間を確保します。

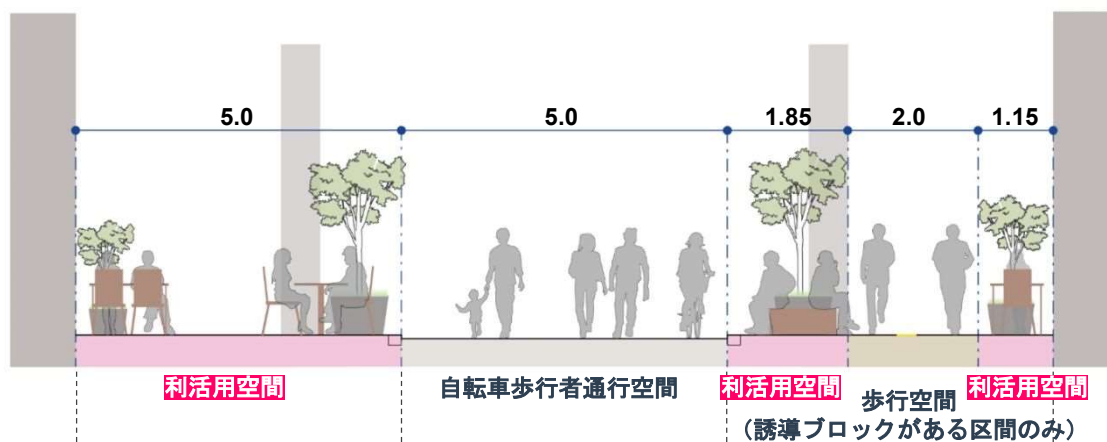
2-3. 本町通りの基本構成

- 現在と同様の交通規制(一方通行及び11時から20時までは車両通行規制)のまま、車道幅員を7.0から5.0mへと縮小し、現在よりゆとりのある歩行空間を確保します。
- 中央の車道部は、車両通行時(20時-翌11時)は自動車・自転車が通行する空間として、車両通行規制時は歩行者・自転車の通行空間として使用します。
- 両端の歩道部は、車両通行規制時には、視覚障害者誘導用ブロックに必要な空間を除き、**全面的に利活用が可能な空間**とします。沿道店舗による道路空間の多様な利活用を促します。

車両通行時
(20時-翌11時)



車両通行規制時
(11時-20時)



部分平面図



3章 銀座通りのデザイン方針

3-1. 銀座通りの将来デザイン

銀座通りの目指す姿

銀座通りは、一宮市の玄関口にふさわしい、シンボルロードとして整備が進められてきました。駅からまちなかへと人の流れを作り、店舗の活気が店先にあふれ、様々なチャンレジを生み出す“一宮の顔となる風格と親しみのある「市民広場」通り”を目指します。



【デザインコンセプト】

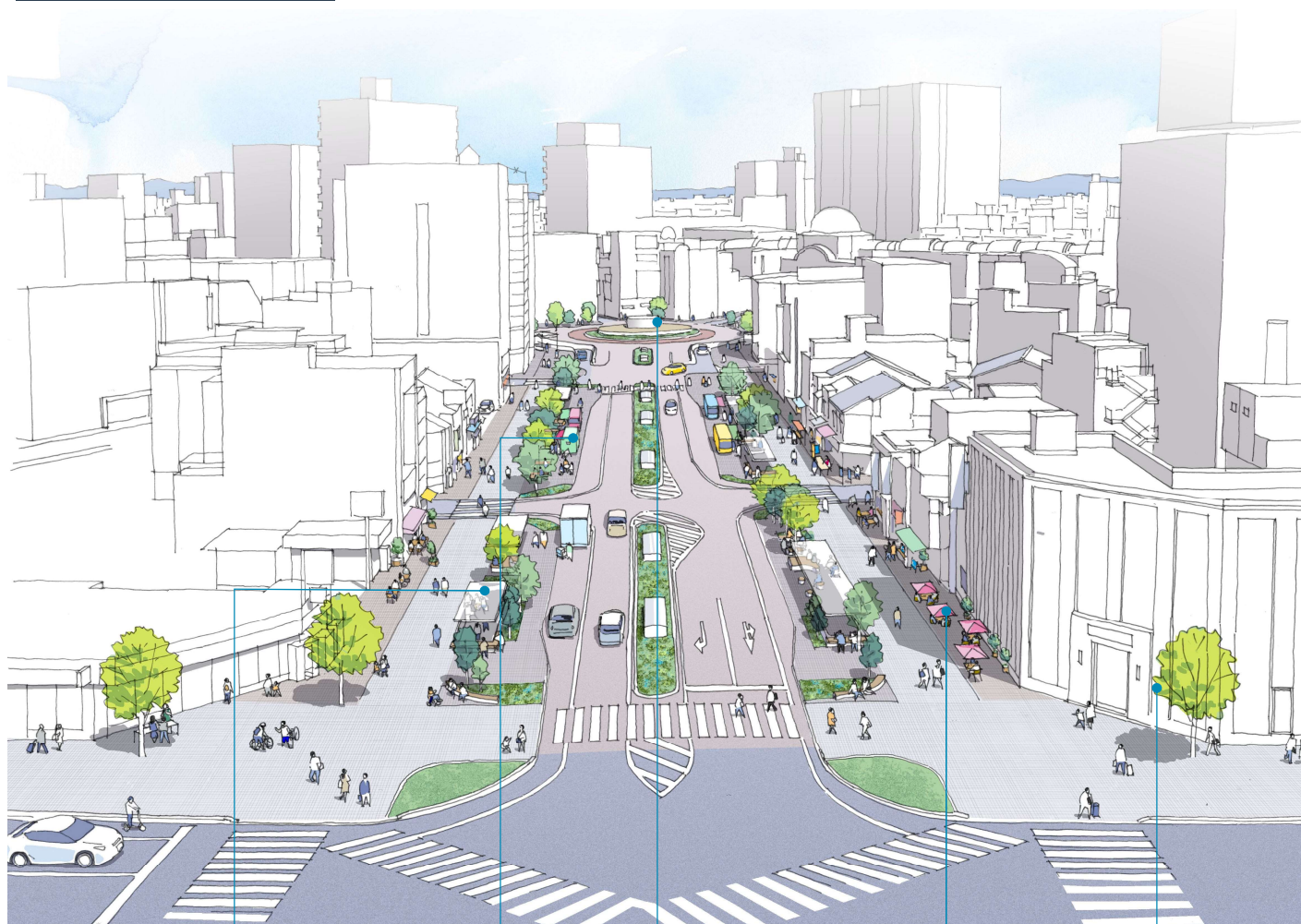
- ① 来街者が一宮駅に訪れ、最初に目にする通りにふさわしい**風格のある街路景観**
- ② このエリアの回遊の起点となる、**日常的に居心地のよい歩行／滞在環境の充実**
- ③ 土地利用／都市機能の誘致や集積につながる、**通りの活用に向けた設え**



3-2. 銀座通りの将来デザインの考え方

- 広い歩道空間を生かし、街路空間でありながら、店舗と一体的な広場空間として使える通りを目指します。
- 駅からの眺めにおいて重要となるラウンドアバウトのシンボル性向上と、通りを歩いたときに変化を楽しむことができるアイレベルでの居心地の良さを両立したデザインを目指します。
- 商店街やまちづくり団体等と行政が協力して、ほこみち等の制度による道路空間の利活用を進め、沿道店舗が活用しやすい空間確保、ベンチなどの滞留施設や植栽の充実、多様な主体・活動が利活用に参画できる環境整備と仕組みの構築を進めます。

一宮駅から見た通りのイメージ



みどりや木陰が充実した滞留空間の創出

地下駐車場歩行者用出入口と一体的に上屋を整備し、スツール、カウンター等の多様な設えによる滞留空間を整備します。それらの滞留空間と一体的に植栽を配置し、日差しや雨から守られ、安心感のある空間を創出します。

多様な利活用に応える道路側の利活用空間

歩道の道路側にも利活用空間を設け、道路からの車両乗り入れを可能にするなど、多面的な活用が可能となる環境を整備します。

象徴性の高いラウンドアバウトの改修

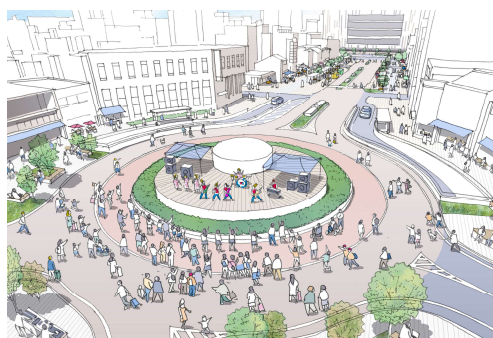
日常は通りの眺めのシンボルとなり、イベント時はステージとしてにぎわいを生むラウンドアバウト改修を検討します。

沿道店舗等による歩道の活用

歩道のうち沿道店舗前の道路空間は、店舗が積極的に利活用ができる環境を整えます。

来街者を出迎える交差点空間

植栽や滞在施設により、一宮に来訪する人々を出迎えるにふさわしい交差点空間を実現します。



イベント時のラウンドアバウトのイメージ

銀座通りの歩行空間のイメージ

沿道店舗による
軒先活用の推進

歩道のうち沿道店舗前の部分は、店舗がオープンカフェやテイクアウト、商品棚を設置などの利活用ができるようにします。

歩きやすく質の高い
舗装デザイン

シンボルロードにふさわしく、質が高く歩きやすい舗装を整備します。歩道内での使い方の違いを緩やかに区切りながらも、連続性のあるデザインを実現します。

道路施設の集約と
滞在性の向上

歩道の中央部に植栽や照明などを集約し、ベンチやツール、カウンター等の多様な設えによる滞留空間を整備します。それらの滞留空間と一体的に植栽を配置し、居心地の良い空間を創出します。

駐車場出入口の上屋を
活かした滞留空間

日差しや雨から守られた、居心地の良い滞留空間をつくるため、地下駐車場歩行者用出入口と一体となった上屋を随所に整備します。

多様な利活用に応える
道路側の利活用空間

歩道の道路側にも利活用空間を設け、道路からの車両乗り入れを可能にするなど、多面的な活用が可能となる環境を整備します。

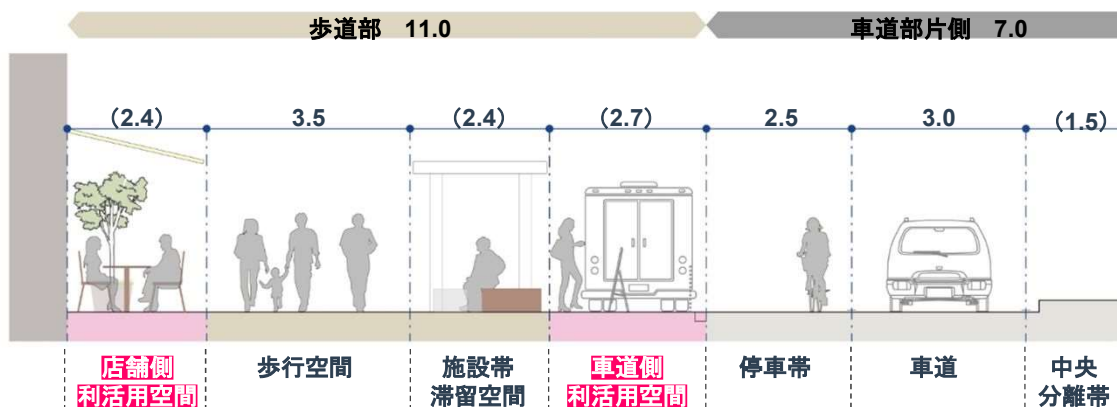
駐車場出入口の上屋を活かした
滞留空間のイメージ



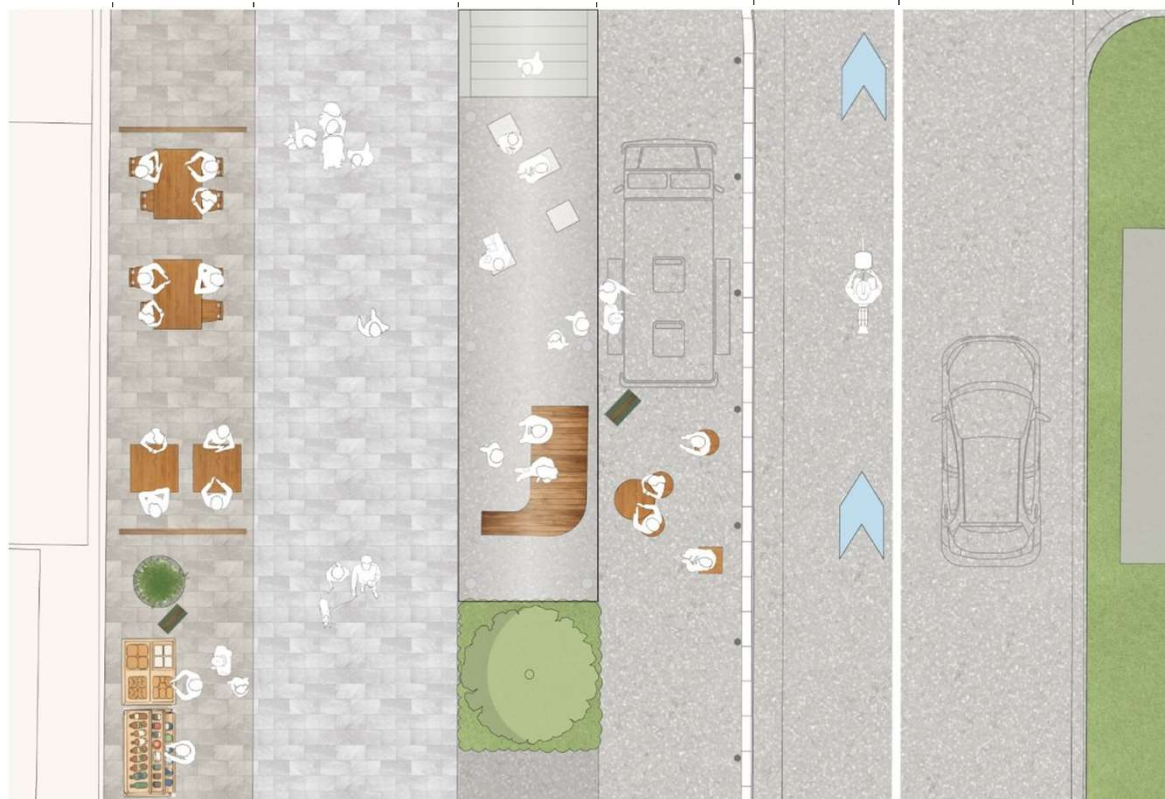
3-3. 銀座通りの基本構成

- **現在の道路構成**（車道及び歩道の幅員構成）のまま、広い歩道空間を、沿道店舗が利活用する「店舗側利活用空間」、歩行者が通行する「歩行空間」、道路施設や植栽、ベンチ等の滞留施設を集約した「施設帯・滞留空間」、多様な利活用の受け皿となる「車道側利活用空間」に分け、歩行と利活用が共存する歩道環境を目指します。
- 「施設帯・滞留空間」には、**植栽や地下駐車場歩行者用出入口の上屋と一体的な滞留空間を整備し**、夏の日差しや雨をしのげ、安心、快適に滞留できるスポットの設置を検討します。
- 車道側の利活用空間においては、舗装の車両乗入れへの対応など、キッチンカーや出店、ワークショップなど、**様々な活動を展開しやすい道路構造を検討**します。

断面図
(半断面)



部分平面図



4章 今後の予定

4-1. 通りの利活用の考え方

ほこみちの活用

ほこみちとは、道路を「通行」以外の目的で柔軟に利用できるようにするものです。この制度によって道路空間を活用する際に必要となる道路占用許可が柔軟に認められるようになります。この制度を活用すると、たとえば、幅の広い歩道にオープンカフェやベンチなどを置いて、歩行者にとって便利でにぎわいあふれる空間を創り出すことができます。

本町通りや銀座通りにおいては、この制度を活用することを想定しています。沿道店舗や商店街が中心となって、通りの歩道空間の多様な活用ができる仕組みを作り、様々な営みが通りにあふれるみちづくりを目指します。

ほこみちの概要



出典：ほこみちリーフレット

https://www.mlit.go.jp/road/hokomichi/pdf/hokomichi-leaflet_02.pdf

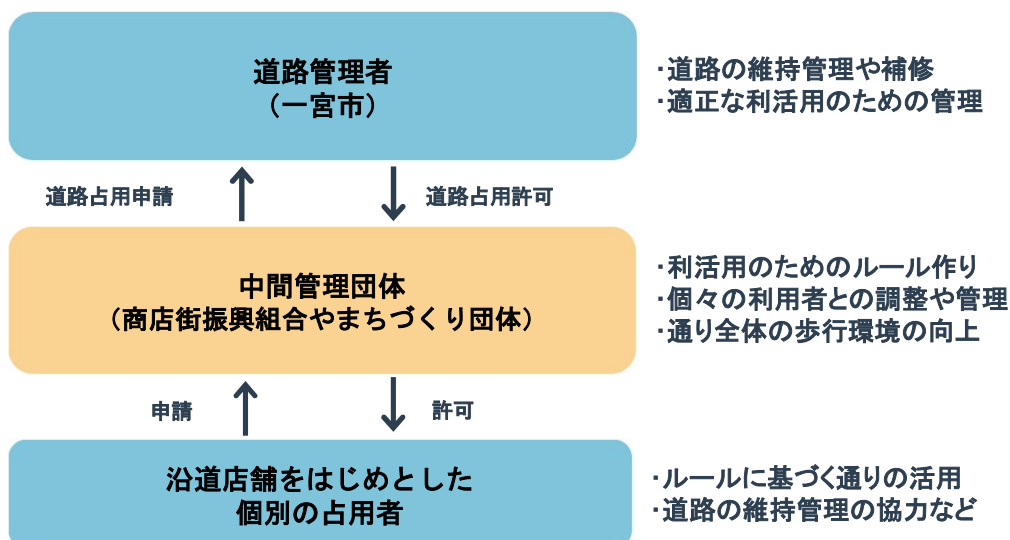
道路利活用の取り組み体制づくり

道路の利活用にあたっては、通りのにぎわいを生み出す活用を促しつつ、なるべく柔軟に、利活用の取り組みを妨げないような仕組みづくりが重要です。

そのため、全ての活用を直接行政が管理するのではなく、通りごとに中間管理団体を設置し、活用に関するルール作りや個別の占有者との調整を行いながら、通りの環境を向上する体制づくりを進めます。

沿道店舗をはじめとした道路の利活用を行いたい個別の占有者の意向も汲みながら、柔軟かつ適正な通りの活用を促進します。

道路利活用の体制イメージ



4-2. 今後の予定

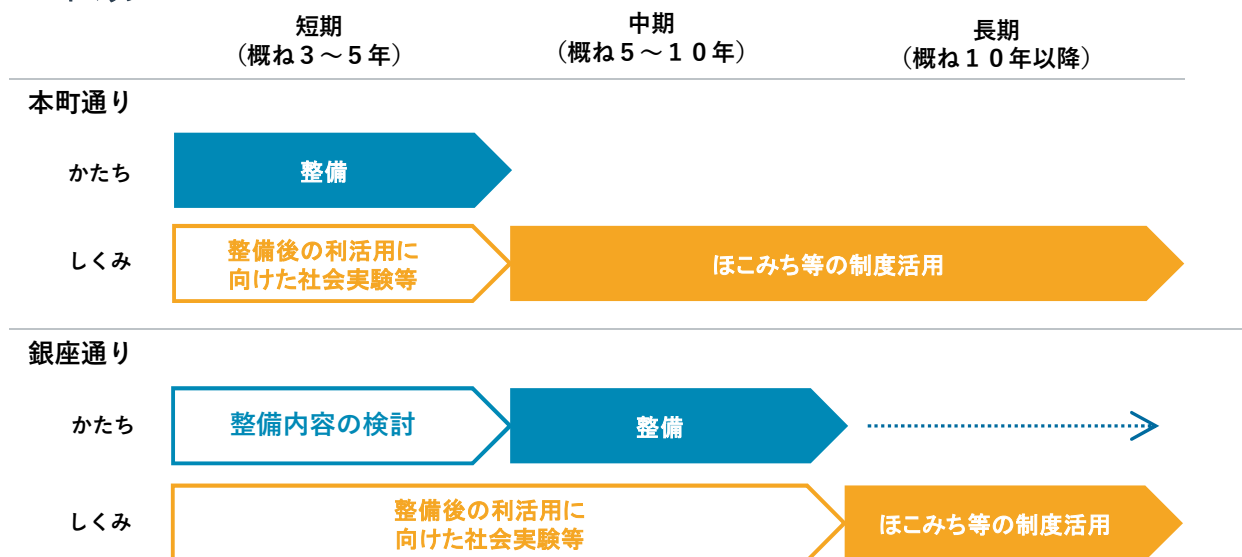
本計画に基づき、本町通りおよび銀座通りのデザイン方針実現を目指します。

以下に示すロードマップのとおり、まず本町通りの整備に着手し、その後銀座通りの整備を行います。中期的に実施する銀座通りの整備にあたっては、本計画で将来像として示したデザイン方針をもとに実際の整備内容を検討し、長期的に将来デザインの実現を目指します。

整備と並行して、整備後の利活用について、一宮まちなか未来会議と連携を図りながら検討、調整、社会実験の実施を進めます。

また、対象エリア内において新たな取り組みを検討するうえでは、様々な関係者や市民との議論や調整を行い、本計画の見直しや追加、そして計画の具体化を行います。

ロードマップ



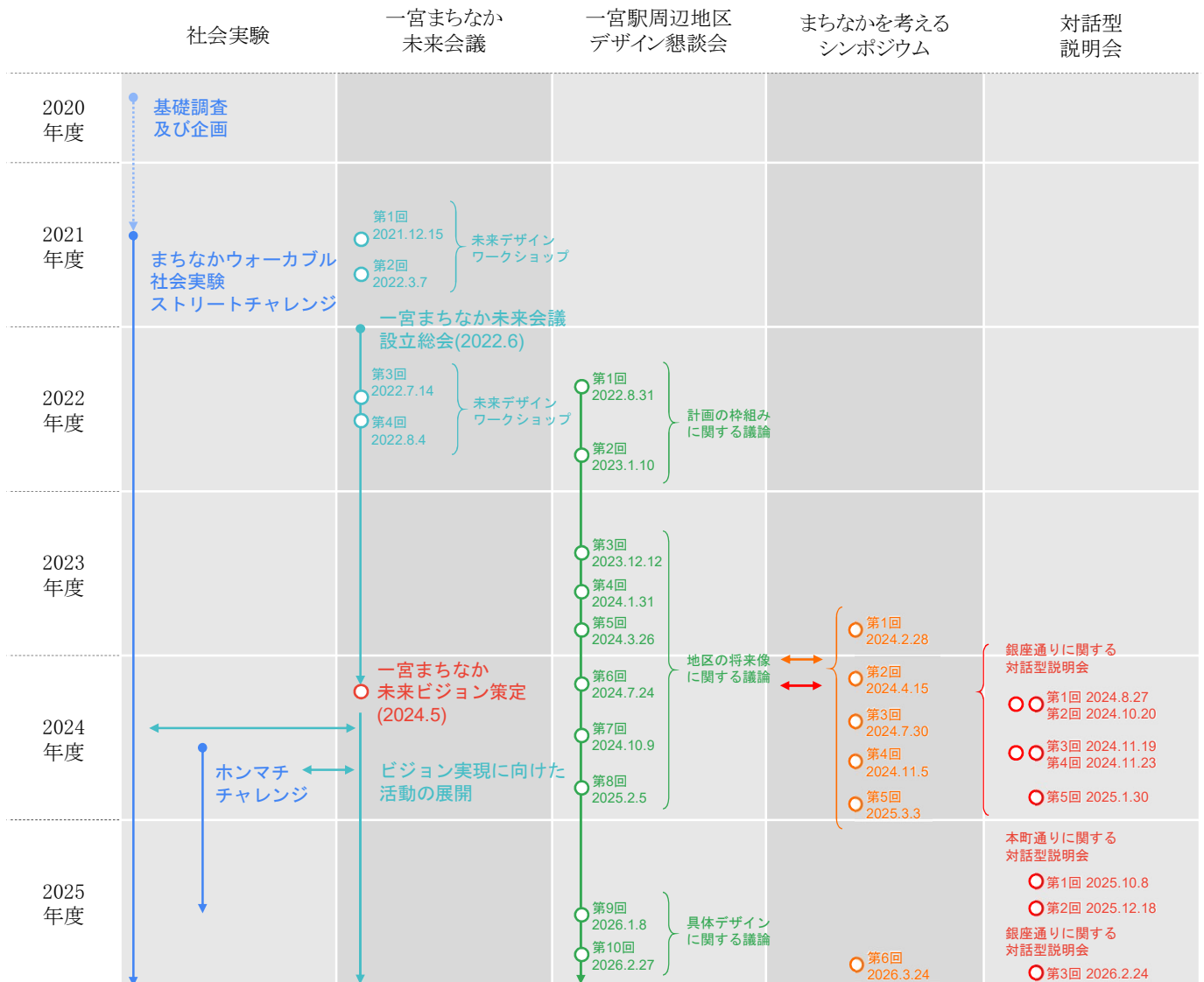
参考資料

- これまでの取り組み

(1) 一宮駅周辺地区におけるこれまでの取り組み

一宮駅周辺地区では、2020年度から取り組みを進めており、2021年度からは公共空間を活用し多様な活動を促す社会実験「ストリートチャレンジ」を展開しつつ、官民連携のまちづくり組織一宮まちなか未来会議を中心に、地区のまちづくりの方向性を議論してきました。

また、2024年度からは一宮まちなか未来ビジョンの策定を受け、「まちなかを考えるシンポジウム」や銀座通り、本町通りの「対話型説明会」を通じて様々な関係者の意見を聞き取り、将来の地区のデザインのあり方をデザイン懇談会で議論し、市の将来デザインを具体化しています。



(3) ストリートチャレンジとホンマチチャレンジ

① まちなかウォーカブル社会実験「ストリートチャレンジ」

2021年から現在にかけて、本町通りや銀座通りをはじめとした、地区の公共空間の利活用を促進するまちなかウォーカブル社会実験「ストリートチャレンジ」を実施しています。

銀座通りを通行止めにして実施した社会実験では、市内の30近くの様々な活動団体や事業者が公共空間の活用を行い、通常時の4倍以上の歩行者が来訪し(2022年)、地区のポテンシャルの再評価ができました。また、ストリートファニチャーの設置により多くの人の滞留が確認できました。

現在は、道路を通行止めせず日常的に歩道や広場を利活用する社会実験を継続して行っています。



まちなかウォーカブル社会実験
ストリートチャレンジ



② ホンマチチャレンジ

2024年から、本町商店街において、歩行者利便増進道路(ほこみち)の活用可能性検証を目的として、沿道店舗による歩道空間活用のための実装的取り組み「ホンマチチャレンジ」を実施しました。

店先の道路空間活用や、空き店舗等使われない店先の歩道空間の有効活用とあわせて、歩行者が快適に過ごせる空間確保、交通安全対策(自動車のスピード抑制など)などに取り組み、ほこみち指定時の効果と課題について検証を行いました。



(4) シンポジウムと地域との対話

① 対話型説明会

銀座通り、本町通りそれぞれの通りのデザインの検討にあたっては、対話型説明会により、市民との意見交換を行う場を設け、検討を進めてきました。銀座通りにおいては、2024年度から2025年度にかけて6回、本町通においては2025年度に2回、対話型説明会を実施し、各通りにおけるデザインや整備のあり方について議論を行っています。



② まちなかを考えるシンポジウム

本計画の策定にあたり、2023年度から市民参加による「まちなかを考えるシンポジウム」を開催し、計画検討状況の報告と参加者からの意見聴取と対話を積極的に実施してきました。

2025年度時点で6回の開催を行い、毎回100名近くの市民や関係者の皆さまに参画いただくとともに、登壇者を中心に、参加者も巻き込んだ活発な意見交換を行い、地区の将来像や通りのデザインに対して議論を行ってきました。開催場所も、尾張一宮駅ビル(i-ビル)のほか、一宮スポーツ文化センター、そして本町通り商店街の路上での開催など、地区の多様な空間の活用を行っています。

各回の議論については、議事録、グラフィックレコード等を一宮市のホームページにて見ることができます。

